

授業科目 在宅看護論実習	区分・教育内容 統合分野 臨地実習		
授業担当者 奥山 真寿美 (専任教員) 堀井 喜世子 (専任教員)	開講時期 前期～中期	単位 2 単位	時間数 90 時間
授業の目的 在宅で生活する療養者とその家族を総合的に理解し、それらの人々が望んでいる生活や生き方ができるような看護を実践できる能力を養う。 授業の目標 【介護老人保健施設等関連施設実習】 <ol style="list-style-type: none"> 1. 施設利用者の特徴を理解することができる。 2. 施設利用者への支援ができる。 3. 施設内における看護師の役割を理解し述べることができる。 【訪問看護ステーション実習】 <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護の対象である療養者とその家族を理解できる。 2. 在宅療養者と家族への援助の実際が理解できる。 3. 在宅における看護師の役割を考えることができる。 【施設実習・訪問看護実習共通】 <ol style="list-style-type: none"> 4. 看護実践を通じて、研究的態度を身につけ、自己の看護観を高めることができる。 			
授業概要 本実習は、介護老人保健施設等関連施設および訪問看護ステーションで実習を行う。 施設実習では、介護老人保健施設、介護老人福祉施設、養護老人ホーム、併設している通所介護等の実習を通し施設の特徴を学ぶとともに、それらの施設で生活している高齢者への支援、施設における看護師の役割について学ぶ。訪問看護ステーション実習では訪問看護師との同行訪問、ケアマネジメントの見学を通して在宅で生活する人々の実際を知り、在宅看護の特徴や在宅療養者と家族とのかわり方などを学び、在宅における看護師の役割と機能を学ぶ。 いずれも、多くは高齢者が対象であり、療養者（施設利用者）と家族の理解に努め、生活の場における看護実践の特徴と看護過程の基礎を身につける機会としたい。受け持ちに限らず、興味をもって療養者・家族と主体的に関わる姿勢が求められる。 また、施設・訪問看護ステーション実習を通じて、多くの専門職と接する機会がある。多職種と、どのように連携・協働を図っているのか、それが何に向かっているのかを考えてほしい。さらに、多職種と関わることで、改めて看護の専門性とは何かを深めてほしい。			

授業計画(進め方)

1. 実習施設

①介護老人保健施設等関連施設実習

(介護老人保健施設遊心苑、介護老人福祉施設リンデンバウムいずみ、養護老人ホーム聖徳会)

②中通訪問看護ステーション

2. 実習方法

1日目 実習ガイダンス (学内)

2～6日目 介護関連施設実習 5日間

7～12日目 訪問看護ステーション実習 6日間 (うち1日はケアプランセンター実習)

13日目 学内のまとめ (最終日午前 カンファレンス)

3. 施設および訪問看護ステーション実習、終了時に実習の学びを整理し発表する。

テキスト

ナーシンググラフィカ 在宅看護論 地域を支えるケア メディカ出版

公衆衛生がみえる 2016-2017 第3版 メディックメディア

角田直枝編集 よくわかる在宅看護 学研

参考書・指定図書

評価の方法

実習評価表に基づいて実施 (施設実習 40%、訪問看護ステーション・実習の学び 60%)。